

二級河川奥潟川水系
河川整備基本方針

平成18年1月

徳島県

目 次

1 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
2 河川の整備の基本となるべき事項	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	7
(参考図)	
奥潟川水系図	8

1 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

ア 流域の概要

奥潟川は、その源を徳島県海部郡日和佐町横川の山中に発し、途中牟井谷川を合わせ日和佐町を貫流し太平洋に注ぐ、幹川流路延長約 3.9km (徳島県知事管理区間 3km)、流域面積約 6.6km² の二級河川である。奥潟川流域はそのすべてが日和佐町に含まれる。

流域の地形は、上流域 (源流から JR 鉄道橋) が山地と谷底平地、中流域 (JR 鉄道橋から千羽口橋) が三角州性低地、下流域 (千羽口橋から水門) が三角州性低地と人工平坦地からなる。

流域の地質は、仏像構造線以南の四方十帯の北帯に区分される。四万十帯を構成する地質は主として中生代白亜紀の砂岩・泥岩である。

流域の気候は、夏に雨が多く冬に雨が少ない太平洋側気候に分類される。年平均降水量は約 2,500mm、年平均気温は約 16 であり、この流域は県内でも降水量が多く、気温が高い地域に属する。

イ 自然環境

上流部は山あいを流れる溪流であり、川幅は狭い。河床は石・砂礫となっており、カワムツ (カワムツ B 型) 筍が生息する。鳥類では、ウグイスやビズイが奥潟川周辺の樹林で見られる。なお、この区間で見られる取水堰には魚道が設置されておらず、川の連続性が途切れた状況にある。

中流部は山が開けて、奥潟川沿いに農地が広がる。魚類ではアユ、オイカワ等の淡水性の魚類が見られ、周辺の水路ではメダカやドジョウが生息する。周辺の農地ではコサギが群れをなし、越冬期にはホオジロ、タヒバリ等が見られる。

下流部は河川改修済みで川幅が広く、緩やかな流れとなっている。この区間では、ゴクラクハゼ等の回遊性の魚類が生息する。水門上流の遊水池ではヨシ原が広がり、魚類ではメダカ、ギンブナ等が生息する。鳥類ではカルガモ、コガモ等の水鳥が見られ、上空ではミサゴが餌を求めて飛来する。また、奥潟川に架かる橋にはイワツバメが営巣している。

河口部 (水門から河口) は日和佐港の港湾区域となっており、岸壁が整備されている。魚類では汽水・海水性のスズキ等が生息するほか、タネハゼ等のハゼ類が見られる。日和佐城周

辺の山は室戸阿南海岸国定公園に指定されており、サシバ、サンショウクイ等の鳥類が確認されている。

ウ 水質

奥潟川では水質汚濁に係る環境基準の類型は指定されていないが、平成 14 年度の水質調査の BOD 値 (生物化学的酸素要求量) は、千羽口橋で 0.8mg/l、嵐橋で 1.4mg/l であった。これは、河川 A 類型 (2mg/l 以下) に相当する良好な水質である。なお、下流域では公共下水道の整備が進められている。

エ 治水事業の沿革

奥潟川は、川幅が狭く堤防が低いことから大雨のたびに水が溢れて、周辺地域では浸水等の被害がたびたび発生していた。昭和 41 年 8 月の台風 13 号では、中流域から下流域において甚大な浸水被害が発生した。

これを受け、昭和 44 年度に河川改修事業に着手し、基準地点「弁財天」において計画高水流量を $120\text{m}^3/\text{s}$ と定めた。この改修事業は、奥潟川 (4,550m) と牟井谷川 (650m) の 1,900m の区間において築堤、掘削、護岸等の整備を行うものであり、平成 15 年度末現在、整備途中である。このため、櫛ヶ谷橋より上流では近年でも浸水等の被害が発生している。

河口部では、高潮によって家屋や田畑が浸水等の被害を受けてきた。このため、高潮対策として、昭和 36 年の第二室戸台風級の高さを想定した堤防整備に取り組んでおり、平成 15 年度末現在、ほぼ完成している。

オ 水利用

河川水の利用については、農業用水として農地のかんがいに利用され、許可水利権と慣行水利権が設定されている。これらの取水は、奥潟川の上流部から中流部の区間と牟井谷川で行われている。

カ 空間利用

河川空間の利用については、奥潟川沿いの道路や南阿波サンライン^{みなみあわ}ではトライアスロンやマラソン大会が行われている。下流部の遊水池周辺では親水性の護岸やベンチが整備されており、散歩や自然観察をする人が見られ、地域住民の憩いの場として利用されている。また、河口部では一年を通じて釣り人の姿が見られる。

キ 社会環境

奥潟川流域の人口は約 820 人（平成 12 年）で、近年では増加傾向にある。また、流域の産業別就業者数を見ると、平成 12 年国勢調査では第三次産業従事者が約 67%を占めており、第一次産業従事者は約 6%となっている。

流域の土地利用については、約 8 割が山地となっており平地は約 2 割である。平地のうち、中流域では農地が広がり、下流域では市街地が広がる。また、流域のすべてが都市計画区域に含まれる。

流域の主要な交通としては、JR牟岐線^{むぎ}、国道 55 号といった地域の幹線交通路が通っている。また、千羽口橋を起点とする南阿波サンラインは、室戸阿南海岸国定公園の雄大な海岸線を通る道路である。

ク 歴史 観光等

奥潟川流域は日和佐町の中心地に位置し、県南地方の漁業基地として発展してきた日和佐港、四国霊場 88 箇所第 23 番札所薬王寺等^{やくおうじ}があり、流域とその周辺地域は古くから県南の政治、文化、交通の要衝として発展してきた。

流域には、日和佐城や城山公園^{しろやま}があり、春には多くの花見客が訪れる。近くの城山遊歩道は人々の憩いの場となっており、また竜宮公園^{りゅうぐう}は家族連れのおふれあいの場となっている。流域周辺には大浜海岸^{おおはま}、千羽海崖^{せんば}等の観光地があり、流域には一年を通じて多くの観光客が訪れる。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

徳島県では、川づくりの基本理念として、「安全で安心できる社会の実現（安全 安心）」、「自然環境の保全と創造（環境）」、「個性を育み活力ある地域社会の形成（活力）」を掲げ、自然環境と調和した安全で個性を育む社会の実現を目指している。

奥湯川水系の河川整備では、「うるおいと親しみを与えるふるさとの川」を目標として、関係機関や地域住民と連携を図り、水系一貫した河川整備を行うとともに、治水 利水 環境に係る施策を総合的に展開する。

ア 洪水・高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

地域住民の生命・資産を洪水から守るため、過去に発生した洪水、河川の規模、流域の資産等を踏まえ、県内の他の河川とのバランスを考慮し、おおよそ 30 年に 1 回程度発生する規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目的とする。

また、河口部では第二室戸台風級の高潮による被害を防止する。

計画規模を上回る洪水・高潮、整備途中における河川管理施設能力以上の洪水・高潮に対しては、被害を最小限に抑えるため、関係機関や地域住民と連携を図り、情報伝達体制・警戒避難体制の整備等のソフト対策の支援に努める。

河川の維持管理に関して、常に河川管理施設の機能を最大限発揮できるよう、施設の点検、補修に努める。

イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

今後とも適正な水利用が図られるよう、河川管理者、地域住民、河川利用者の協力のもと、河川流況や利水状況等の把握に努める。

また、動植物の生息・生育環境、景観、水質保全等の水環境を良好に維持するよう、必要な流量の設定・確保に努める。

さらに、渇水時には関連情報を正確かつ迅速に収集し、状況を把握するとともに、河川水位等に関する情報提供を行うなど、円滑な渇水調整を行う。

ウ 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、「徳島県公共工事環境配慮指針」に基づき、環境に配

慮した事業を実施していく。また、メダカ等が生息・生育する河川環境を十分に把握し、治水・利水と調和を図り、動植物にとって良好な生息・生育環境の保全に努める。

また、人と地域に活力を与え、地域発展に寄与することを目指し、人と河川との豊かなふれあいの場となるような水辺空間の整備と保全に努める。

水質に関しては、調査・監視を行うとともに、河川への流入汚濁負荷量の削減に向け、関係機関と連携を図り、良好な水質の保全に努める。

さらに、河川に関する情報を流域住民等に幅広く提供し、流域全体で一体となって河川清掃、河川愛護活動等に取り組むことによって、地域住民と行政が連携した河川管理の推進に努める。

エ 地域の個性の創造と地域発展に関する事項

流域の自然や地域の風土を生かした個性ある川づくりを目指すため、関係機関や地域住民の意見を河川整備に反映させ、地域の実情に応じた川づくりに努めるとともに、地域の河川に係る取り組みを促進、支援する。

2 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

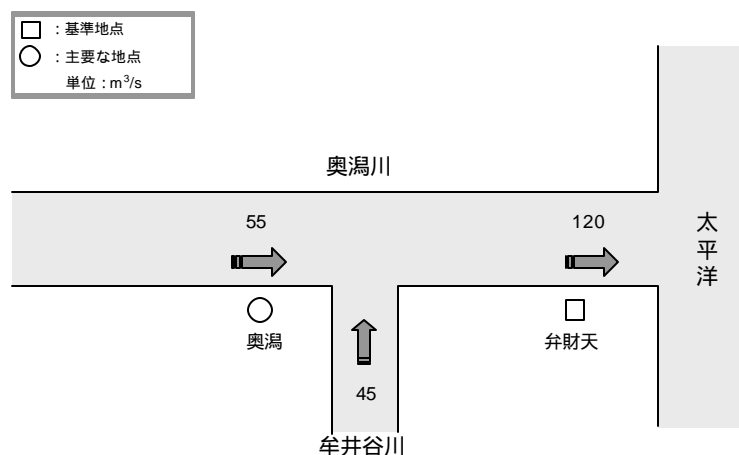
基本高水は、おおよそ 30 年に 1 回程度発生する規模の降雨による洪水について検討を行った結果、ピーク流量を基準地点「弁財天」において $120\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道によりすべて流下させるものとする。

基本高水のピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
奥潟川	弁財天	$120\text{ m}^3/\text{s}$		$120\text{ m}^3/\text{s}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点「弁財天」において $120\text{m}^3/\text{s}$ とし、また、主要な地点「奥潟」において $55\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

奥潟川水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係るおおよその川幅は、次表のとおりとする。

また、高潮被害の防止における計画高潮位は T.P.+2.65m とする。

河川工事の実施において、「徳島県公共事業環境配慮指針」に基づき、環境配慮について検討を行っていくものとする。また、河道の横断形は現況を踏まえた形状とし、河川環境の保全に努める。

主要な地点における計画高水位等一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P. m)	川幅 (m)	備考
奥潟川	弁財天	1.04	+2.29	26	計画高潮位 T.P.+2.65m
〃	奥潟	1.84	+2.85	16	

T.P.：東京湾平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

奥潟川の河川水は、農業用水として利用されている。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、流量等の河川状況の把握、利水の現況、動植物の保護、景観、水質保全等を考慮し、今後さらに調査検討を行ったうえで設定する。



参考図 奥潟川水系図

